



平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年10月31日

上場会社名 日本和装ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2499 URL <http://www.wasou.com/profile/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田重久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 菅野泰弘 TEL 03-3216-0070
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	3,808	12.7	354	591.9	314	—	169	—
28年12月期第3四半期	3,379	△6.3	51	△45.4	3	△89.7	△16	—

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 182百万円 (—%) 28年12月期第3四半期 △22百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	18.81	—
28年12月期第3四半期	△1.89	—

(注) 平成29年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、平成28年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	7,466	2,500	33.2
28年12月期	6,340	2,386	37.5

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 2,480百万円 28年12月期 2,376百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	2.00	—	3.00	5.00
29年12月期	—	4.00	—	—	—
29年12月期(予想)	—	—	—	6.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	13.6	450	39.3	400	60.0	220	26.4	24.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期3Q	9,002,000株	28年12月期	9,002,000株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	0株	28年12月期	0株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期3Q	9,002,000株	28年12月期3Q	9,002,000株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
3. 補足情報	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当社グループでは、当事業年度、「新・きもの着付け教室／受講料無料」のカリキュラムを全15回から全6回に短縮。当社の手早く着られる着付け技術を短期間で習得できることを前面に打ち出すことで広告宣伝活動を展開しました。これに対しては、お客様より「本当に15分で着られるようになった」「コツを教えてもらったら、着姿が全然違う」といった好評の声を頂いております。当第3四半期は秋の募集の時期であり、応募者数は前年同期比約1.3倍と伸びていることから、消費者のニーズを反映した教室を企画・実行できていると考えております。また、引き続き、春の教室受講者増に伴う販売仲介機会の増加は顕著で、営業利益は前年同四半期比の約7倍となりました。

一方、既存顧客向けのイベントやツアーでは「付加価値の提供」に注力いたしました。当第3四半期には、京都の世界遺産をめぐる産地ツアーや大型ファッションショー「第10回きものブリリアンツ全国大会」などを実施。演出等にも注力した結果、顧客満足度の向上につながり、付随する販売会での売り上げも好調に推移しました。

これらの取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,808百万円(前年同四半期比12.7%増)、営業利益354百万円(前年同四半期比591.9%増)、経常利益314百万円(前年同四半期比9,438.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益169百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失16百万円)となりました。

連結子会社である株式会社はかた匠工芸(博多織の製造販売)では、販売会の増加に伴い、手織りの博多帯等の自社製品の売上も堅調です。また、直販店「男きもの専門店SAMURAI」はオープン3周年で累計来店人数10,000名を突破。市場開拓に確実に寄与しているものと考えております。

また、当社グループでは当事業年度、販売仲介機会における自社クレジットの取り扱いを強化しており、ニチクレ株式会社(旧会社名日本和装クレジット株式会社)では、当社顧客向けショッピングローンの取引高が大幅に増加。連結業績の向上につながりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心とした、きもの関連事業の単一セグメントのため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して1,125百万円増加し、7,466百万円となりました。これは割賦売掛金が702百万円、現金及び預金が261百万円増加したこと等によるものです。また、負債につきましては、前連結会計年度末と比較して1,011百万円増加して、4,965百万円となりました。これは主にニチクレ株式会社の運転資金等に充当する長期借入金1,063百万円増加したこと等によるものです。純資産につきましては、利益剰余金が101百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して114百万円増加し、2,500百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(平成29年10月31日)公表いたしました「平成29年12月期通期業績予想及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

現在の取り組みについて

当第3四半期より、新たに、業界初となるきものに特化した修繕保証サービス「きもの安心保証」の取り扱いを開始いたしました。手入れが大変、維持費がかかるといったイメージを払拭し、安心してより多くの場面で、お気に入りのきものをたくさん着てほしいという思いから、当社グループが過去実施してきた修繕のデータをもとに商品開発を行ってきたもので、まずは当社グループの顧客を対象に認知度の向上・利用の拡大を図り、ゆくゆくはきもの小売市場全体での展開を目指してまいります。また、卒業生向けの販売仲介機会として開催している「きものだよ!全員集合」や「匠の会」では、より産地との繋がりを持たせ、作り手の思いが滲む会場運営を実施。売り上げも順調に推移しております。

当社グループでは、和装文化が生き生きと根付いた社会を実現していくため、「きもの百年を考え、きもの百年を共に創る」という思いを込めて、これからの事業展開のスローガンに『きもの百年の大計』を掲げることにいたしました。今後とも当社グループのビジネスモデルである「教えて、伝えて、流通を促す」ことを柱に、和装ファンを増やし、きものライフをもっと充実した楽しいものにしていくための取り組みを進め、企業価値の向上を図ってまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,638,258	1,899,447
営業未収入金	231,461	223,377
割賦売掛金	3,118,237	3,820,627
たな卸資産	151,567	172,243
その他	470,772	663,011
貸倒引当金	△43,820	△46,742
流動資産合計	5,566,475	6,731,964
固定資産		
有形固定資産	317,765	309,175
無形固定資産	92,239	87,087
投資その他の資産	364,161	337,802
固定資産合計	774,166	734,065
資産合計	6,340,642	7,466,030
負債の部		
流動負債		
営業未払金	45,313	54,658
短期借入金	2,178,111	1,663,379
1年内償還予定の社債	50,000	—
未払法人税等	96,590	68,890
前受金	171,536	362,120
営業預り金	19,571	37,149
その他	374,689	707,949
流動負債合計	2,935,811	2,894,147
固定負債		
長期借入金	966,446	2,030,193
その他	52,072	41,138
固定負債合計	1,018,518	2,071,332
負債合計	3,954,330	4,965,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	459,634	459,634
資本剰余金	336,487	336,487
利益剰余金	1,591,441	1,692,985
株主資本合計	2,387,563	2,489,108
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△10,637	△8,344
その他の包括利益累計額合計	△10,637	△8,344
新株予約権	9,386	9,387
非支配株主持分	—	10,399
純資産合計	2,386,312	2,500,551
負債純資産合計	6,340,642	7,466,030

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	3,379,541	3,808,357
売上原価	323,406	410,489
売上総利益	3,056,135	3,397,868
販売費及び一般管理費	3,004,900	3,043,371
営業利益	51,234	354,496
営業外収益		
受取利息	175	64
その他	4,307	6,745
営業外収益合計	4,482	6,809
営業外費用		
支払利息	27,297	23,141
支払手数料	19,965	22,770
為替差損	—	558
その他	5,159	627
営業外費用合計	52,422	47,097
経常利益	3,294	314,208
特別利益		
固定資産売却益	45,336	—
特別利益合計	45,336	—
税金等調整前四半期純利益	48,630	314,208
法人税、住民税及び事業税	47,459	110,989
法人税等調整額	18,164	21,134
法人税等合計	65,624	132,123
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16,993	182,085
非支配株主に帰属する当期純利益	—	12,717
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△16,993	169,367

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△16,993	182,085
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△5,956	△61
その他の包括利益合計	△5,956	△61
四半期包括利益	△22,950	182,023
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△22,950	171,661
非支配株主に係る四半期包括利益	—	10,362

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

3. 補足情報

業績の四半期特性について

当社グループの主な収益源のひとつは、春期と秋期の「新・きもの着付教室／受講料無料」の新規受講者を対象にした販売機会において、各契約企業が商品を販売する際の販売仲介手数料です。春期は第1四半期に受講者を募集・開講し、当該受講者の販売機会は第2四半期が中心になります。同様に秋期では第3四半期に受講者を募集・開講し、当該受講者の販売機会は第4四半期が中心になります。よって業績には四半期特性があります。